

令和4年度第1回誰もが共に暮らすための市民会議 議事録（会場・書面の併催）

日時：令和4年6月24日（金曜日） 19時00分～21時00分

場所：浦和コミュニティセンター 多目的ホール

次第

1. 開会

- ・課長挨拶
- ・本日のテーマの説明
- ・市民会議の進め方について

2. 議題

- ・グループ討議（班ごとの話し合い）

○自己紹介

○障害者総合支援計画（2021～2023）令和3年度達成状況報告書（案）について

3. 閉会

- ・まとめ

配布資料

資料1 令和4年度第1回誰もが共に暮らすための市民会議資料

資料2 障害者総合支援計画（2021～2023）令和3年度達成状況報告書（案）

参考資料1 令和3年度誰もが共に暮らすための市民会議議事録

参考資料2 令和3年度誰もが共に暮らすための市民会議アンケート結果

参考資料3 障害者総合支援計画アンケート調査について（概要）

意見シート 令和4年度第1回誰もが共に暮らすための市民会議意見シート

アンケート 令和4年度第1回誰もが共に暮らすための市民会議アンケート用紙

1. 開会

（事務局）

皆様大変お待たせいたしました。お時間となりましたので、「令和4年度第1回誰もが共に暮らすための市民会議」を始めさせていただきます。

本日は、お忙しい中、市民会議に御出席くださいまして、誠にありがとうございます。

私は、本日司会を務めます、障害政策課の増田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、前方で手話通訳を行っておりますので、見えづらい方がいらっしゃいましたら、見

やすい位置に移動していただいて結構でございますので、よろしくお願いいたします。

それでは、開会にあたりまして、障害政策課長の竹内より、御挨拶申し上げます。

◆課長挨拶

(竹内障害政策課長)

皆様、こんばんは。ただいま御紹介いただきました、障害政策課長の竹内でございます。
会議の開催にあたり、一言御挨拶を申し上げます。

本日は、大変お忙しい中、令和4年度第1回誰もが共に暮らすための市民会議に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

さいたま市では、ノーマライゼーション条例の制定から、昨年で10年を迎え、今年で11年となりました。これまで、本日のような市民会議の場などで皆様からの御意見をいただきながら、障害のある方への支援やノーマライゼーションの推進について、進めることができました。

一昨年度の市民会議から、主に「コロナ禍での困りごと」として、皆様から様々な事例や御意見をいただきました。時間が経過するとともに、感染の波や変異株の増加など社会情勢が大きく変化する中で、その都度生の声を直接聞くことができる市民会議はとても貴重な機会であり、皆様からいただいた事例をもとに、市では、市民に向けた周知活動を実施しているところでございます。

昨年度の市民会議は、参加人数の制限や書面による開催など、新型コロナウイルスの影響を受けての開催でございました。まだまだ先の読めない状況ではございますが、今回の市民会議はたくさんの方に御参加いただき開催することができました。

本日は、「令和3年度障害者総合支援計画の達成状況」等について、引き続き皆様から忌憚のない御意見を頂戴できればと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、簡単ではございますが、私からの挨拶とさせていただきます。

(事務局)

それでは、本日の会議資料について、御説明いたします。

資料につきましては、事前に、郵送でお送りしておりますが、7点ございます。

まず、1点目が資料1「令和4年度第1回誰もが共に暮らすための市民会議資料」でございます。ここで一部訂正があります。8ページ、全体の評価結果、重点事業の結果に一部誤りがありました。具体的な訂正箇所につきましては、資料2で御説明させていただきます。大変申し訳ございません。

2点目が資料2といたしまして、「障害者総合支援計画（2021～2023）令和3年度達成状況報告書（案）」で、少し厚い冊子でございます。

なお、ここで一部訂正がございます。49ページ、拡大資料を御覧の方は64ページ、事

業番号 75「外出が困難な障害者（児）に対する社会参加の促進」について、総合評価に誤りがあり、B 評価と記載しておりますが、正しくは C 評価「コロナの影響あり」となり、8 ページ、拡大資料を御覧の方は 11 ページの総合評価についても、評価が C「コロナの影響あり」となります。それに伴い、3 ページ、拡大資料を御覧の方は 4 ページ、「全体の評価」、「重点事業の評価」の評価、目標を達成、C 目標を未達成（コロナ影響あり）の項目について、事業数、割合を修正しております。

また、4 ページ、拡大資料を御覧の方は 6 ページ、図 3 基本目標別の評価結果「3 自立と社会参加の仕組みづくり（27 事業）」につきましても、B 評価、C「コロナ影響あり」の項目が訂正となります。差し替え資料につきましては、受付時にお渡ししておりますが、不足等ありましたらお声がけください。御迷惑をおかけし、大変申し訳ございません。

3 点目が、参考資料 1 といたしまして、「令和 3 年度第 3 回誰もが共に暮らすための市民会議議事録」でございます。

4 点目が、参考資料 2 といたしまして、「令和 3 年度第 3 回誰もが共に暮らすための市民会議アンケート結果」でございます。

5 点目が、参考資料 3、「障害者総合支援計画アンケート調査について（概要）」でございます。

6 点目が、1 枚紙の「令和 4 年度第 1 回誰もが共に暮らすための市民会議意見シート」でございます。

7 点目が、「令和 4 年度第 1 回誰もが共に暮らすための市民会議アンケート」でございます。

なお、アンケートにつきましては、本日の市民会議終了後に、受付で回収させていただきますので、御協力をお願いいたします。

また、本日御回答が難しい場合には、アンケート用紙の裏面にございますとおり、送付先への FAX やメール、さいたま市ホームページのアンケート回答フォームなどでも御回答いただけますので、御活用ください。

回答の締め切りは、令和 4 年 6 月 28 日火曜日とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

以上 7 点が本日の資料となります。皆様、不足等はありませんでしょうか。

◆さいたま市の障害者施策の推進体制について

（事務局）

それでは、本市の障害者施策の推進体制について、御説明いたします。お配りしております、「資料 1 令和 4 年度第 1 回誰もが共に暮らすための市民会議資料」の 2 ページ、拡大資料を御覧の方は 3 ページ、「さいたま市の障害者施策の推進体制」を御覧ください。

さいたま市の障害者施策については、障害者総合支援計画をどのような内容にするのか、

どのように進めていくかなどを協議する、円の上にある「さいたま市障害者政策委員会」、それから、円の左側にある、障害者施策について市民の皆様が意見交換を行う、「誰もが共に暮らすための市民会議」、そして円の右側にある計画を実施するさいたま市が、お互いに連携して、よりよい施策を進めてまいります。

市民会議において、皆様からいただきました御意見につきましては、「さいたま市障害者政策委員会」に御報告をいたします。

なお、今年度の市民会議の年間予定については、こちらのページの下にございます、「令和4年度誰もが共に暮らすための市民会議年間予定」にございますとおり、本日の6月24日金曜日が第1回目、次の第2回目が12月20日火曜日、第3回目が年明け令和5年の2月21日火曜日、合計3回、市民会議を開催する予定です。

なお、2回目以降の市民会議の開催にあたりましては、新型コロナウイルス感染症の流行状況などを踏まえて判断してまいります。新型コロナウイルス感染症の状況によっては、会場開催を中止とさせていただく場合がございますので、あらかじめ御了承ください。

◆令和3年度第3回市民会議のテーマに対する主な意見について

(事務局)

続きまして、資料1、6ページ、拡大資料を御覧の方は7ページの「第3回市民会議のテーマに対する主な意見について」を御覧ください。

昨年度の2月に開催いたしました、第3回市民会議におきましてテーマといたしました、「「コロナ禍において生じた困りごと」を解決するために、どのような配慮が必要か」について及び「変異株の発生等により新たに生じた困りごと」について、皆様からたくさんの御意見を賜り、誠にありがとうございました。

なお、時間の関係もございますので、お配りしている資料の中から、かいつまんで御紹介させていただきます。

まず、「コロナ禍において生じた困りごとを解決するために、どのような配慮や支援が必要かについて」については、「障害を配慮し、対応できる医療機関の紹介、もしくは相談できる窓口の設置が必要。」といった御意見や、「ワクチン接種予約は、障害者の合理的配慮に十分対応できるように努めてほしい。」といった御意見、「簡単な文言や絵を使った、見ただけでわかる説明ボードのような物が準備されていると良い。」といった御意見をいただきました。

続きまして、「変異株の発生等によって新たに生じた困りごと(どのような場面で、どのようなことがあったか)について」については、「ウイルスが変異しても、市報さいたまやマスコミ等で発信される感染対策は、いつも同じような内容で、変異に対して何をどうしていいのかが具体的に分からず困っている。」といった御意見や、「医療の逼迫等で、濃厚接触者の定義や待機日数が変わり、基準が分かりにくい。」といった御意見をいただきました。

こうした御意見を踏まえまして、今年度も引き続きホームページや SNS を活用し、広く周知を行っていく予定でございます。

簡単ではございますが、令和 3 年度第 3 回市民会議についての報告は、以上とさせていただきます。

なお、令和 3 年度第 3 回市民会議でいただいた御意見は、参考資料 1 の議事録にて全ての御意見を掲載しております。また、参考資料 2 には、アンケート結果を掲載しておりますので、後ほど御参照ください。

◆テーマの説明について

障害者総合支援計画 令和 3 年度達成状況の報告について

(事務局)

それでは、本日のテーマについて御説明させていただきます。

本日のテーマは、「令和 3 年度障害者総合支援計画の達成状況等について」でございます。障害者総合支援計画の令和 3 年度の達成状況等につきまして、御意見や皆様が感じていらっしゃる現状などについて、御発言をいただければと思います。

それでは、8 ページ、拡大資料を御覧の方は 9 ページ、「障害者総合支援計画（2021～2023）の実施状況等について」を御覧ください。

なお、こちらのページ、資料差し替えとなりますので、本日受付にてお渡しさせていただきました資料を御覧ください。

まず、「1. 達成状況報告書とは」という項目についてですが、本市では、障害者総合支援計画にある事業を取りまとめ、報告をしているものでございます。

次に、「2. 令和 3 年度実施状況等の概要」でございます。

まず、全体の評価結果でございますが、前期計画の事業は全部で 94 事業ありまして、各事業の令和 3 年度の目標に対する達成度について、事業所管課が、内部評価を行いました。評価基準といたしましては、数値や数量などの目標が設定されている事業の評価については、実績がおおむね 110% 以上となった場合は A 評価、実績がおおむね 90% 以上 110% 未満となった場合は B 評価、実績がおおむね 90% を下回った場合は C 評価、実績がおおむね 0% の場合は D 評価、該当する事業が無かった（例として、施設整備の予定がなかった、当該選挙がなかった）等の場合は、－（ハイフン）、実績値の測定ができず、代替手法による測定もできない場合は、コロナにより測定不可、という基準に基づいて判断しています。また、数値や数量を定めていない事業については、取組内容から総合的に判断しています。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、当初見込んでいた目標を達成できなかった場合においても、実績値の算出が可能である場合は、通常どおり達成率の算出を行い、A～D 及び「－」の評価を行っています。このうち、新型コロナウイルス感染症の影響を原因

として「C」もしくは「D」評価となった目標指標は、個別評価欄にて『C「コロナ影響あり」』、『D「コロナ影響あり」』と記載しています。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、実績値の測定ができなくなったり、代わりの方法でも測定できない場合は、「コロナにより測定不可」としています。評価の内訳といたしましては、94事業のうち、「A 目標を上回って達成」が17事業、「B 目標をおおむね達成」が60事業、「C 目標を未達成」が1事業、「C 目標に対してほぼ未着手（コロナ影響あり）」が10事業、「D 目標に対してほぼ未着手（コロナ影響あり）」が4事業ございました。

また、「－（ハイフン） 該当事業なし」が0事業ございました。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、実績値の測定ができず、代替手法による測定もできなかった、「コロナにより測定不可」が2事業ございます。

その結果、「A 目標を上回って達成」と「B 目標をおおむね達成」を合わせた「目標を達成」した事業は、94事業中、77事業となり、割合では81.9%となりました。

また、重点事業の評価結果については、26の重点事業のうち、「A 目標を上回って達成」が6事業、「B 目標をおおむね達成」が14事業、「C 目標を未達成」が1事業、「C 目標を未達成（コロナ影響あり）」が4事業、「D 目標に対してほぼ未着手（コロナ影響あり）」が1事業、「－（ハイフン） 該当事業なし」はございませんでした。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、「コロナにより測定不可」についてもございませんでした。

全事業の詳細や評価理由等につきましては、お配りしております「資料2 障害者総合支援計画（2021～2023）令和3年度達成状況報告書（案）」に掲載しております。計画に掲げている事業の中には、明確な数値目標を掲げることが難しい事業が多くあります。また、目標値に対する実績を、どう評価するのかという点につきまして、市の内部評価と、皆様の感じている評価が異なっている場合もあるかと思いますが、あくまで、評価基準に基づく内部評価でございますので、本日は、皆様の率直な御意見をいただければと思います。

また繰り返しにはなりますが、本日、皆様からいただきました御意見につきましては、来月中旬に開催いたします、「さいたま市障害者政策委員会」に御報告させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

◆市民会議の進め方

（事務局）

ここで、市民会議の進め方について、御説明させていただきます。ページ戻りますが、3ページ、拡大資料を御覧の方は4ページを御覧ください。

①話すときは、会議進行役のファシリテーターの呼びかけによって話し始めてください。

- ②みなさんが発言できるように、1 回あたりの発言は3 分くらいを目安にお願いします。ただし、障害の特性にあわせて、特別な配慮が必要な方は、5 分くらいを目安としてください。
- ③他の人が話しているときは、途中でさえぎらず、最後まで聞くようにしてください。
- ④話し合いの相手を攻撃したりせず、意見として受け止めてください。少数意見を大切にしてください。
- ⑤特定の個人や団体の悪口や傷つけるような発言はしないようにしてください。
- ⑥みんなが発言しやすいような雰囲気になるよう心がけてください。また、限られた人だけが発言するのではなく、発言したい人みんなが発言できるよう配慮してください。
- ⑦個人的な内容についての発言は、個人情報やプライバシーを守るため、市民会議が終わった後に、個人がわかる形で、他の人に話さないでください。

みなさんで、より良い話し合いを行い、会が実りあるものになるように御協力をお願いします。市役所職員も各グループにお邪魔して、書記を務めさせていただきますので、よろしくをお願いいたします。

話し合いは、20 時10 分までになります。そのあと、15 分間の休憩を挟んで、20 時25 分から、ファシリテーターの方に、グループで出た御意見を発表していただきます。

なお、各グループから挙がった意見については、PC でまとめ、発表時に会場前方に投影します。また、会議終了後においても、必要に応じて再度 PC でまとめた御意見を会場前方で映します。会議終了後に時間を設けますので、記録が必要な方は撮影を行ってください。それでは、グループでの話し合いを始めてください。

2. 議題

- (1) 令和3 年度達成状況報告書（案）を受けて、感想や課題と覚えることについて

○全般

- ・令和3 年度状況報告を受けての感想は、全体19 件中意見表明が大半できた方が15 件と多数であったので、より良い市政に活かせるチャンスがあってよかったと思う。
- ・参加者の中には「コロナ」という「疫病の中でも」書面参加より対面参加で生の声が聞きたい方もいらっしゃった様なので、それはリスク回避の為の方策という事で書面参加は良いのではないかと思います。
- ・ガイドヘルパーをもっと増やしてほしい。
- ・市営住宅に障害者が入れるようにしてほしい。
- ・手帳B の人も福祉タクシー券を貰えるようにしてほしい。
- ・障害者用の防災キットがほしい。
- ・障害者が入れる避難所をわかりやすくしてほしい。
- ・緊急通報システムの目標数を明確にほしい。

- ・緊急時安心キットの目標を明確にしてほしい。
- ・障害福祉サービス事業所の整備が建築資材不足から整備に至らなかったとのこと、卒業生達の進路が心配されます。定員に空きがあり、市外からの障害者を受け入れている施設などを見直し、市内の障害者利用を推進して対応するなど、不幸な市内障害者が出ないように願っています。
- ・3カ年計画の初年度がコロナ禍で事業が進まなかった分を、2022、23年で実施していただきたいです。
- ・市政について市民の声が届くような番組があるとよい。
- ・精神の場合は、方向性の違うものが沢山載っていて課題が多い。
- ・うちもかしの木まで行かないといけないので、特別支援学校が遠い。さいたま市としてどうなのかと思う。家族が送迎できない人はどうしているのかと思う。
- ・運転できて当たり前、仕事してなくて当たり前というのはどうなのかと思う。
- ・施設は西区と桜区に偏っている。
- ・様々な特性を持った方が地域で暮らしていて、家族の方が一番知識が必要で勉強もしている。
- ・家族全体が生き方を変えないといけないこともあるなかで、窓口業務を行う方がひとくくりに見るわけではなく、それぞれの人生をどう守るか。
- ・さいたま市には視覚障害者の生活の相談、就労の相談ができる場所がない。東京都、社会福祉協議会に相談した。
- ・理解を広げるためには沢山の人の参加してもらおう。総合支援計画が実施されていることが目にわかるようにしてほしいことがよくわかった。
- ・計画全体の問題として、実績報告だけでは測れないことを行政が自覚するべき。アウトプットとして、計画の事業を実施した結果、障害者が暮らしやすくなったのかというのを図っていくのが施策の評価。そこからどんな施策をやっていくのかを検討していくべき。これに時間をかけるのであれば、違った評価の仕方に時間をかけていくべきではないか。
- ・もっと生活ベース、リアリティに沿った評価。
- ・計画のアンケートを実施すると思うが、そのアンケートも施策の評価として使えないものか。障害者の実感としての施策の評価。計画を作るためのアンケート、計画を策定、施策がぶつ切りになっているように感じる。税金の無駄。そういうことを政策委員会で検討してほしい。
- ・初めての参加で、沢山事業番号があって、やっていたことを知らないことが多かった。ABCの評価について、内部評価という説明があったが、もっと深めていくといいと思う。
- ・令和2年度と3年度で目標が下方修正されていたり、成果指標が変化しているものがあり、それで評価があがっている。目標や成果指標が変わったのであればその理由もわかるとよい。
- ・目標値は達成しているが、生活の実感としてもう少し増えてくれると嬉しい。

- ・多くの事業で実感と評価での乖離を感じる。ノンステップバスやグループホーム。
- ・コロナ禍で不安定な状況の中、イベント等への参加は難しかったものの、2年あまりのコロナ感染予防対策をしながら工夫を重ねて計画実行してきていると感じました。
- ・そもそも、内部評価なので自画自賛的なものになってしまうのは仕方がないと思いますが、職員対象の研修などは、各課所などから1人参加するようなものが多く、それで参加した職員の個人的な感想をもって組織全体の評価とするのはどうかと思います。
- ・バリアフリーやユニバーサルデザインなどの評価に関しては、健常者の職員にはできないと思います。職員が「A」評価している事業には「え～、そんな高いの?」というものが多くありましたし、「C」評価している事業には「いやいや、もっと高いよ」というものがあつたので、職員以外の評価も検討してはどうかと思いました。最終的に、障害者政策委員会に報告するのであれば、障害者や支援者の意見を反映させているのかどうか大事だと思います。
- ・意外と色々なことに取り組まれているのだなと思いました。同時に、”だれもが共に暮らすため”には一般的な人たちへの認知がもっと進まないといけないと思います。自分から進んで情報を得ようとしないと、なかなかこの会議まで辿りつきません。
- ・達成状況を拝見させていただきました。数値から見ると、80%達成ということで、上々の結果だと思います。これは、コロナ禍でなければもっと良い評価になったと考えられるのであれば、今後に繋げていけると思いました。また、コロナなどの対策を踏まえて、次の達成状況の課題となると思います。
- ・コロナ禍にありながら、目標達成率83%というのは、市としてご苦労された成果かと、評価できると思います。しかしその中で、重点目標達成率が80%に留まっているのは、先々が心配になります。何よりも優先して達成するためにも、当事者団体とも連携し、積極的に取り組んでいただきたいです。各事業について、コロナ禍の影響がある中で、対策を取りつつ開催していることのアピールや、宣伝の方法など、まだまだ工夫ができるかと思われます。イベントや講習会などで参加者を増やすことができれば、理解者を増やすことにつながると考えられます。今後、当会議参加者の皆様とも話し合っていきたいです。

○P10、事業番号1「障害者の権利の擁護等に関する条例の理念の普及啓発」

- ・ノーマライゼーション条例普及の評価 B。誰もが共に暮らす市民会議も B 評価。小学校、わかりやすいパンフ、1500部。配るだけでなく、配布後の結果を知りたい。
- ・ノーマライゼーション条例の理念・啓発、とても大事。条例10年を過ぎたところで、簡明版の見直しが必要ではないか。障害者の情報アクセスなど、新しい法律もできているので、新しい情報を盛り込んでいくべき。障害当事者も見られる内容として、施設職員として見られる内容としてもしていくことが必要。当事者の話を聞いていくという体験を通して、理解を深めることが大切。当事者がわかるリーフレットの活用。
- ・さいたま市広報課がツイッターで、「障害者に対する「差別」や「虐待」に関するパンフ

レット」を紹介していたのは良かった。

・普及啓発については、「手話応援」の取り組みは素晴らしいので、達成状況に載せても良いと思われる。

○P10、事業番号2「誰もが共に暮らすための市民会議の実施」

・新しく参加した人とか状況が見えない。大体決まったメンバーが参加している。一般市民の参加が見られないが、市はどのように運動しているのか。配布して終わりではなく、数ではなく、一般市民に普及した効果があったのか知りたい。

・他の参加者の方が、一般の人が参加できるような工夫をしてほしい。

○P12、事業番号4「人権に関する学習の推進」

・人権教育集会所という言葉は全く周知されていないので、知らなかった。広めるべき。

○P13、事業番号7「精神疾患に関する理解促進」

・YouTube 動画を作成したのは良いが、閲覧数を教えてほしい。

○P14、事業番号8「市職員の障害者への理解促進」

・職員向けの研修についても、内容を更新していかなければならない。現在の情報にあっていいのか、見直す必要がある。

・視覚障害のある自分が単独で何度か浦和区役所を訪れたが、現場の職員の対応は改善できていると感じた。

○P15、事業番号10「差別の解消及び権利擁護のための研修の実施」、

P16、事業番号12「虐待の防止のための研修の実施」

P16、事業番号13「虐待事案等への対応力向上」

・職員が研修を実施したということで、Aがついている。それはそれでよいが、各施設100%ではない。コロナで出られなかっただろう。欠席者もいるはず。全体の何%が出席したのか、どんな研修を実施したのか。手話だけでは通じづらい方もいる。絵での表示など、職員への研修内容も見直す必要があるのではないかな。

・役に立たなかったとしたら、研修の内容が問題。それを役に立たないという方も書きづらい。そのアンケート結果を指標にすること自体、妥当なのか疑問。

・P15、16、事業番号10、12ほか、一般常識として、職員対象の研修参加者のアンケートにおいて「役に立った」と回答するのは「出席」とみなされる条件のようなものであり、これに対して70%などの目標を定めて目標達成などと評価するのはナンセンスと感じる。効果による評価が望ましいが、せめて出席者数や職員の何割に研修を行うといった指標にすべき。(理解度についても同様)

○P 1 7、事業番号 1 4「成年後見制度の利用の促進」

・市民後見人登録している人数や、受任件数を掲載しないと促進されているかはわからない。

○P 2 0、事業番号 1 9「療育体制の強化と効果的な支援の推進」

・ひまわり学園の受診待ちの期間が長いのは不安だろうと思う。目標と評価はこれでよいのかと思う。

・初診待ち期間が増えているのに B 判定はおかしい。

○P 2 2、事業番号 2 3「障害者（児）への福祉サービスの充実」

・指標も無いのに評価が B はわからない。何なら地域生活支援事業の移動支援は制約が多い。ヘルパーも高齢化で足らないので使えない人が多すぎて、評価は低いと思う。

○P 2 3、事業番号 2 6「心身障害者医療費の給付」

・医療費の給付がすべて一緒に評価されているが、身体障害者と精神障害者で格差がある。問題の焦点が違っていると感じる。

・所得制限など絞られているうえでの「B」ということは考えないといけない。

・すべて出すのは難しいが、同じ土俵でやってほしい。公平性がどうなっているのかと思う。

・損したと感じたのは、医療費（23 ページ）の関係で、医療費は無料だが、自立支援の申請をして使わなければ本来いけないが、手続きが難しいのでやめていた。必要になったため自立支援を取り直したら、診断書が有料なのがおかしいと思った。

・更新を忘れてしまう。

・手続きの合理的配慮が必要。

○P 2 4、事業番号 2 8「聴覚障害者のための社会教養講座の実施」

・内容について大変好評である。自分が参加した時も、大変勉強になった。コロナの影響で回数が減ってしまって残念。さらに回数を増やしてほしいぐらいだ。

○P 2 5、事業番号 3 0「精神科救急医療体制整備事業の実施」

・緊急の際の連絡先として医療センターが 24 時間体制で受けてくれると思うが、状況を聞いて、明日かかりつけに行ってほしいと言われることが多い。それを言われるなら電話しないという声が家族会で聞かれる。基準はあるのか。

・電話を受けている件数が多いと思うが、つながっている件数が少ない。漏れている方が別に相談するなど苦勞している。

・市ではやっているというが、当事者との実際の状況との格差がある。実状が伴わない。

- ・データだけで示されると疑問がある。
- ・24時間相談していると言いながら、数字ではなく中身がどうなのかということである。

○P27、事業番号34「ふれあい収集の実施」

・働く支援と普及啓発となっており、B評価となっている。さいたま市は他の市町村より進んでいると思うが、世間一般からするとA評価かもしれないし、横浜市だとC評価かもしれない。A評価まで伸びしろがあると思うから、高次脳機能障害がどういった障害か知ってもらうためにもっと努力をしてもらえばいいのではないか。総合評価はあくまでも、自画自賛みたいところがあるので、当事者の声を含めてアンケートなどで評価に反映させてもらえたらいいのではないか。

○P29、事業番号36「グループホームの整備促進」

・グループホーム1000人分できたのでA。人数的にはそうかもしれないが、企業が参集してできたものであって、漏れ聞くとところだと、問題は多々ある様子。心配。Aは違う。危険である。量だけではなく質。

・南区で相談支援をしているが、GHの数が少ない。通所している事業所を継続する、生活スタイルを変えずに施設を探すというのが難しい。場所的な面でニーズに合った設置ができていないのか疑問に感じる。地域偏在の課題。

・グループホームの整備について、自分が立てた目標への評価では、実態と相違がある。障害者の立場になって考えることが大切。

・グループホームの整備について、多くの人が入りたいのに入れない。違和感を覚える。目標が適切なのか。単に目標に対してのパーセンテージでは、正確な評価ができない。他の政令市と比べて低い。数が少ない他市は独自の施策をしている。自分が立てた目標への評価では、実態と相違がある。

・グループホームの達成がA評価とは納得できない。数字だけで判断しないでいただきたい。実態とはあまりにかけ離れている。以前から意見をあげている。軽度・中度・重度・最重度（医療的ケアが必要な方）と分けて達成度を出してとお願いしているが、そうっていない。資料は軽度のグループホームを中心に評価し数字を出している。軽度のグループホームが増えていても、重度の方のグループホームは増えていない。グループホーム入居を希望している人はどんどん増え、親の高齢化も問題だ。何年も前からグループホームの入居を希望していても実際は入れていない人多すぎる。また軽度のグループホームの利用者は、親が高齢になると実家へ戻るケースがある。軽度の方は、アパートなどの利用でも十分対応できると思う。実態を把握して早急に中度・重度のグループホーム整備をするべきと考える。

・グループホームの定員だけでなく、満遍なく各区に整備できているかが大切。住み慣れた、今までの通所施設に通える地域に住めないと意味が無い気がします。

・グループホームを多く開業したことは一覧を見ればわかりますが、そのほとんどが知的障

害、精神障害対応であり身体障害対応のグループホームは充分とは言えません。グループホームの設置に際してはある程度の補助金を設けた方が良いでしょう。もしくは家賃補助を増額するのはいかがでしょうか。身体障害対応のグループホームは設置条件としてある程度の広さが必要であるため家賃を考えると田舎に作るしか出来ませんが、身体障害があるのであれば利便性がいいところ、公共交通機関（主に駅に）近い方がいいのではないのでしょうか。駅に近いところに拘るのはバスのバリアフリーが行き届いているとは言えないからです。そのようなところは地価が高く家賃も高くなってしまいうでしょう。障害者の収入のほとんどは年金ですから家賃が高くなってしまったらグループホームは利用できません。利便性がいいところは家賃が高くなることは当然で、それを個人の努力でなんとかすることが自由でしょうか？

○P30、事業番号38「市営住宅における障害者などへの入居優遇」

- ・市営住宅の優遇に数字がないのはなぜか。
- ・市営住宅の状況がわかるデータを持っていないから評価ができていないのではないか。市営Bなのに数字が入っていない。担当課を超えて横断的に目標設定や評価を行うことも重要であるとする。

○P31、事業番号41「地域自立支援協議会等を中心とした相談支援の充実」

- ・地域部会（地域協議会）を設置したから、相談支援が充実するわけではなく、各区から出た話し合いの中身をしっかりとさいたま市の自立支援協議会で受け止め、協議し、取り組みに生かす事で相談支援がしやすくなると思います。部会の運営を各区に任せきりで、しかも1年間かけて話し合った内容を、本庁職員の一存でA4、1枚こっぴりにまとめさせるような扱いを受けたら、各区もやる気がなくなると思います。

○P33、事業番号44「精神保健福祉に関する相談の実施」

- ・取り組み内容で、精神保健課では、保健センターと連携して相談に対応したとなっているが、いろんな困りごとを通しての相談と思うが、困ったときにどこに相談したらいいか、家族が動くことが多いが、わからないことがある。保健センターに行くことが多い。こころの健康センターに問い合わせすることも多い。初動のところで、精神保健課が各保健センターと連携しながらとなっているから、精神保健課が中心になってくれるのかと考えたが、それでいいのか。困りごとがあったときに、どこに相談すればいいか、はっきりしていると助かる。現状だと支援課、保健センター、保健所に最初に相談するという発想はあまりない。連携してもらって相談してもらいようによろしくをお願いします。第一窓口がどこになるのか、はっきりしてもらえるとありがたい。思ったような回答が得られないことも多い。最終的には、障害者生活支援センターで相談させてもらうことも多い。

○P33、事業番号45「障害者相談員の設置」

・私も資格持ち。評価がB。実際、私は聞こえないという相談を受けることは少ない。なぜなら、FAXができない等により、対面の相談のみ。Bの評価の具体的な数字、人数を入れてほしい。次回は加わるように。

・ざっくり計画を言えば、他の参加者の方がおっしゃっていたように、当事者、利用者がどういう感想、満足度があるかは報告書からは見えない。内部評価なので、ABが多いのかな、と感じた。相談を受けている立場で言うと、相談窓口はわからないだろうな、と感じている。とりあえず行くが、連携がどのようにされているか、行政に相談に行っても、そっち行ってくださいと言われて支援センターに繋がる方が多い。いろんな支援体制の充実、事業番号45、B評価だが、関係機関と連携して活用と書かれているが、連携の中身が問題だろう。アンケートなど、わかりやすい仕組みがあるといいと感じた。

・障害者相談員は各区にいた方がよいと思います。実際に機能しているのか、相談件数を掲載してほしいです。また、相談員は地域協議会に参加すべきメンバーだと思います。

○P34、事業番号47「福祉の複合的な課題に係る相談支援体制の充実」

・読んで初めて知ったが、福祉まるごと相談センターを設置、増やすとある。福祉まるごとと看板を掲げると期待していつちゃいそうだなと思うが、相談を受けてもらえるか心配になる。思った相談窓口にとどりつかないことがあるので、中身を充実して看板に偽りなしの体制にしてほしい。

・困っていることを言って、その場ですぐ答えの出るものではなかったが、こんなのどう？こんなのどうという話があり、次の道筋を教えてもらえてよかった。その場で結論がでるものではなかったが、よかったと思う。

○P35、事業番号48「障害福祉分野に関わる人材確保・職場定着支援」

・処遇改善加算は国の政策で、周知は評価対象ではないので評価から外すべきだと思います。むしろ、就職面談会の他にもさいたま市独自の施策を市民と共に考える必要があると思います。

○P36、事業番号51「市職員に対する手話等の研修の実施」

・一般市民ではなく、市職員についての内容なので、本来であれば、もっと達成できるはず。一般市民への呼びかけより、市職員の内部の方が呼びかけやすいと考える。コロナ影響ありということになっているが、DVDによる自己学習となったことで、逆に、集合型では仕事の都合上参加できない人がもっと参加できたはずだと考える。研修開催の周知が足りないのではないかな？また、この研修参加の意義を職員はあまり感じていないのではないかな？実際、窓口で手話で挨拶などしてもらったりすることは大変少ない。受講した過去の経験者の人たちには、もっと使ってほしい。なんのための研修だったのか。聞こえない人も同じさ

いたま市民である。同じように対応してほしい。

○P36、37の研修について

・P36、37のように研修をやるうとはしているが、研修の内容に当事者の声を含めていく必要がある。場合によっては、企画から関わってもらうのもよいのでは。

○P37、事業番号52「高次脳機能障害に関する職員研修の実施」

・更生相談センター高次脳機能障害者係が、いきいき長寿推進課にも支援方法等にも、理解度100%を目指してほしい。自立支援医療（精神通院医療）緑区では、高次脳機能障害者脳血管疾患は、ケアマネージャー交通事故等は、障害者生活支援センターです。Aグループに、浦和区小児親さんも忘れるとのことに加え、岩槻区の高次脳機能障害者は、後期高齢者の母親でした。

・高齢介護課を呼んでいないので誰に聞いたのか。

・各区の2号被保険者の人数を知っている。詳細を知りたいため折衝している。

・更生相談センターは頑張っているが、いろいろな状況の方がいる。頑張っているがAではない。

・研修をやったという評価だが、高齢分野の方も一緒に考えるという機会になっているとのが気になる。

・高次脳機能の調査には高齢介護を入れないと調査できない。

・各区で出すのか、市で出すのかも協議した上で出したい。

・高次脳診断が出ていない人を含め、実態把握をしてほしい。

・高次脳機能障害は、発達障害と似ているところがある。

・話を切らずに聞いてあげる、ほめると知的障害のある方は頑張る。

・必要な合理的配慮、特性に合わせた配慮を進めてほしい。職員研修になっているのかが気になる。

・当事者の声を聞いているかが疑問。

・申請についても区によって対応が違う。

・研修をやりたい場合は提案しないとイケない。職員録を持ち歩いているが、たくさん担当があり大変。

・医者でも診断できる方（わかる方）とわからない方もいる。知識がない方が多い。

・関係職員の研修だが、広く対象を設定する必要がある。

・からだの成長だけでなく、こころの成長もある。

・ライフプランに直結してくる。学校の理解も必要。社会的な影響も含めた生きにくさが研修に反映しているのか。

・人として生業がなくなる、生きがいなくなるのは避けなくてはいけない。

・書類は何をそろえればいいのかわからない。役所の方はわかると思うが、当事者、家族は

知らない人は知らない。

- ・生活支援センターの方も知らない人もおり、手続きの仕方がわからない。市の方もちゃんと関わってほしい。

○P40、事業番号58「障害者等に配慮した情報提供」

・「障害者福祉ガイドブック」の冊子に視覚障害者向けの音声版などが作られていることは評価するが、この達成報告書もそうだが、例えば視覚障害者にはどの項目が関係するか、どんなサービスが使えるか、どこを読んでどこに問い合わせるべきかわからない。今どき、Web サイトなどを活用し、質問に答えていくと関係する項目が表示されたり、関連するサイトや相談先が表示されるといった仕組みを作ることは難しくないはず。障害者当事者の意見や視点を踏まえて利用者視点で作り直す事業を進めて欲しい。

○P40～41、事業番号58～60

- ・情報提供が出てくるが、当事者の評価が内部評価だと反映されない。3年に1回のアンケートに過去に1度答えたことがあるが、施策について聞いてみたらいいのではないかな。

○P41、事業番号60「視覚障害者への情報提供の充実」

- ・評価Bは妥当と思いますが、どのように充実が図られているのでしょうか？
- ・事業内容にそれなりの意味はあるが、昭和の時代から進化できていないことは問題。ICT技術を利用して視覚障害者もリアルタイムで新聞記事や書籍なども技術的には読める時代に、それを利用出来るような技術習得支援、支援者の育成などを進めて欲しい。

○P41、事業番号61「選挙時の情報提供」

- ・公職選挙法の改正を図って欲しいと思います。
- ・国の公職選挙法に問題がある。選挙情報が点字や音訳がぎりぎり届く。選挙公報を作る手伝いをしているが、利用する立場、作成する立場からわかるが、膨大な資料が投票日の3日前だった。睡眠時間を削って読んだ。法律を変えてくれるよう伝えるが、日程的につらいことをさいたま市も一緒に伝えてほしい。
- ・知的、精神の選挙活動。選挙公約が障害者にとってわかりにくい。投票場所までは同行可能だが、部屋の中にはついていけない。選挙管理委員がちゃんと説明しているのか外から見えるようにしていただきたい。
- ・資料読む限り、A、Bでおおむね評価があるが、実態と乖離していると感じる。市民に周知した方がいい。選挙管理委員の方より、選挙事務の方が配慮が足りていないと感じる。コロナ禍になり、マスク、ついたてがあるが、名前の確認等行っているが、障害特性によれていない。
- ・拡大鏡を使えば書けるが、いつも使っている濃い鉛筆の方が見える。自分の筆記用具を持

って行っていいのか。選挙管理委員会に聞く。FAX。当日の要望について事前に相談している。選挙だけではなく、色々としている。前もってわかるのでうまくいくことが多い。その場で言われると相手も対応できない。急に言われても無理と言われることが多い。

- ・聞こえないと伝えと、コミュニケーションボードを用意する。不在者投票の場合、ボードが用意されていなかった。筆談でコミュニケーションできない障害者もいる。聞こえない場合は、すぐボードの用意をしてほしい。突然行っても大丈夫なようにボードの用意をしてほしい。

- ・他の参加者の方の意見に賛成。選挙事務の方に障害特性を周知してほしい。事前の説明会とかで。

- ・文言が難しい。漢字がたくさん。聞こえない方の中には、知的に問題がなくても長い文書を読むことが難しい人もいるから簡潔な文章。選挙公報の配慮をしてほしい。より読みやすく。投票しようという気持ちになる。

- ・さいたま市でどうこうできるわけではないが、公職選挙法を変える必要があるが、選挙公報に載っている公約が点字、音声になるのは候補者の承諾が必要な状態。手元に届いているのは2人分なのに、TVは3名。どっちとなる。1人の分がわからない。市にどうこうできる話ではないが、公職選挙法を早く変えてほしい。許可するのを忘れた等により、去年の選挙も立候補者の数に相違があるのがつらい。立候補した人が提出したとおりに選挙公報に載せるのが決まり。

- ・施設では、職員が公約に目を通して、障害者にわかりやすく表とかにする。その表を見て判断できるかというと思う。支援者から希望することは、要約するのはよいが、立候補者による簡単な説明があるといい。

- ・選挙、拡大鏡、音声が使えないとあったが、耳が聞こえないことも同じ。街頭演説も手話通訳者がいない。候補者が手話通訳者をつけるかつけないかを決めるのではなく、全員につける法律になればいい。最高裁判官の評価もどのようにすればよいかわからない。○、×もどう評価すればよいかわからない。

- ・衆議院、参議院の選挙だから市として関わることは難しいかもしれないが、市の選挙では、合理的な配慮が可能なのではないか。こうしてほしい、こうしたらわかりやすいと伝えていくが、市のお力添えが欲しい。青山さんの意見に大賛成。候補者の承諾がないと音訳等がされないのは納得できない。一般の選挙公報と扱いが違う。選挙をもっと平等にしてほしい。情報格差が生じてしまう法律に感じる。

- ・国や県とも連携して、すべての選挙で視覚障害などにより紙や画像の選挙公報が読めない有権者への情報保障を公的に確立して欲しい。

○P 4 2、事業番号 6 2「障害者用資料の収集と作製の充実」

- ・市立図書館としては素晴らしい取り組みができています。

○P 4 3、事業番号 6 4「障害者総合支援センターを拠点とした就労支援の充実」

・就労支援の充実は視覚障害者と感覚のずれがあると感じる。さいたま市は政令指定都市なので、視覚障害者に特化した相談場所がない。連携を図ると書いてあることがうれしかった。重度障害者就労支援事業の対象に視覚障害者の同行援護を加えてくれたことが嬉しかった。仕事の途中で視覚障害になることもあるから。

・障害者総合支援センターは視覚障害者に対する就労支援を行えていない。支援計画にあるとおり、国や県の視覚障害に特化した機関に、間違いなく有機的連携を具体的に進めて欲しい。

・新規に障害者雇用を始めた企業数が 1 件で評価 B は甘いと思います。

○P 4 4、事業番号 6 6「障害者優先調達の推進」

・これも市職員の力で達成できる部分が多いと感じる。なぜ優先的、積極的に全庁的に取り組んだにもかかわらず、目標が達成できないのかを知りたい。

○P 4 5、事業番号 6 7「自主製品販売事業の活性化」

・カタログをどこに置いているのか、何か所置いているのかわからないと評価のしようがない。

○P 4 6、事業番号 6 9「重度障害者の就労支援事業」

・視覚障害者に対する同行援護にも適用されたことは、全国でも先進的な取り組みとして素晴らしい。制度の周知啓発と共に、手続きの煩雑さなどで利用が困難にならないように進めて欲しい。

・指標も実績もわからない評価は、評価不能で良いと思います。件数を掲載してほしいと思います。

○P 4 6、事業番号 7 0「ユニバーサルデザインの推進に関する職員への意識啓発」

・「思いやりをはぐくむ研修」、差別解消、合理的配慮は義務。よかれと思ってやったら危なかったということがある。思いやりではなく、どうすれば合理的配慮ができるかという研修にした方がいいのではないか。

・他の参加者の方もおっしゃったように、研修のタイトルが「思いやり」は同じように思った。ネーミングが日本人的で違和感がある。

○P 4 8、事業番号 7 3「ノンステップバスの導入促進」

・ノンステップバスについて、前よりどうか分かるが、国の定めている指標や他市と比べて評価することも重要ではないか。さいたま市だけの評価ではなく、国の施策に沿ってどうかなどの評価、必要としている人が満足しているかなどを評価することが大切。

・スロープを出す場所がないなどのハード面の不足がある。運転手の研修が足りていないのではないか。

・導入率の実績 68.1%→もっと増やしてほしい。目標値は達成しているが、生活の実感としてももう少し増えてくれると嬉しい。

○P49、事業番号75「外出困難な障害者（児）に対する社会参加の促進」

・1事業所が減るとするのは、コロナの影響があると感じない。相談支援で見るケースとして、こどもの送迎に移動支援がなくなってしまうと親の就労が継続できない。夕方の支援はニーズが高い。みんな希望の日数には届かないという現状がある。目標に対して1減ではなく、ニーズに対してどのくらい足りないのかという指標とすべき。またヘルパー不足に対して補助をするなど。ヘルパーの年齢として高齢層が多い。セカンドキャリアになっているので、短時間就労が多く、ニーズと合わない。若いヘルパーをどう巻き込んでいくか、学生を取り込むとか。こんな簡単な指標で判断をしないでほしい。

・移動支援の評価は事業所の数ではなく、移動支援を利用したい人々の希望時間数に対して、事業所がどれだけの時間数・サービス提供・又は用意できているかで見べきではないか。特に放課後等デイサービスに代わる成人期の夕方のサービスとしての需要、土日の長い時間の外出への需要に追い付いていない。

○P49、事業番号76「福祉タクシー利用料金助成事業、自動車燃料費助成事業の実施」

・令和3年度の評価が対象者の拡大とあるが、年度途中で手紙がきて、対象になると言われて助かった。

・タクシーかガソリンが選べるが、対象が狭いが、たまたま対象になった。

・余暇活動もすべて車でやっているなので、助かる。

○P53、事業番号84「市立施設の使用料減免」

・障害者手帳アプリは初耳で周知が足りていない。

○P53、事業番号85「防災知識等の普及・啓発」

・要介護者があるが、自治会、防災の後に自治会のあとに名簿が配られるが、実際私に防災訓練があるという声かけがない。手紙が配布されているようだが、要介護者がいるということがちゃんと把握しているのか。

・災害時要配慮者支援マニュアルは福祉サービス事業所にも配布すべきだと思う。

○P54、事業番号87「避難行動要支援者名簿の活用」

・「避難行動要支援者」に関してですが、自治会等に周知しているようですが、「防災訓練があるから参加してください」など呼びかけを受けたことが一度もありません。総合評価がA

とは納得できない。

・A 評価になっていることが疑問。名簿は障害者に対してきちんと出されているか、自身も出していない。ろう者、車いす、視覚障害、何かあったときに支援が必要。ろう者は見た目からは支援が必要とわからないので、支援をしてもらえるのか不安。年 1 回でも民生委員が障害者を訪問するなどして、把握をしてほしい。以前、郵便で登録の依頼があったが、出し損ねてしまった。連絡が電話だったので、気づかなかった。その後、訪問された際、在宅だったのにインターフォンに気づかず。のち、役所に相談して、民生委員が訪問するも、手話通訳者を同行しておらず、やりとりが大変であった。

・補足だが、災害基本法があって、3 月に東北で地震があったとき、停電になった。情報が得られず大変であった。たまたま民生委員が、日頃から連絡を取り合っている人だが、何も連絡がなかった。隣人の高齢者は名簿を出していたので対応してもらえたが、自分のところには来ず、不安に感じた。消防署に行って停電の理由を聞いたら、部分的に停電していると教えてくれた。名簿は大事だが、提出していない人へもフォロー。名簿があるだけでなく、それに基づいた支援が行われる必要がある。

・避難行動要支援者名簿について、利用者の面談で確認をしたことがあるが、民生委員に知られたくないという心理が働き、あえて出していないという方もいる。民生委員の人柄次第では、嫌がる方も。民生委員のモラル的な面は教育されているのか。日頃から顔を合わせていないと、いざという時の支援につながらない。そういった面を考えると A でよいのかと感じる。

○P56、事業番号89「防災訓練への障害者の参加」

・避難所運営訓練に関しては各区の障害者団体を通じても良いが、個人でも、必ずその地域に住む災害時要配慮者が参加できるよう配慮が必要と思います。

○P58、事業番号92「インターネット・メール・ファックスによる119番通報受信」

・送受信検査を毎日実施しているとあるが、障害者側が使えることの検証が行われていたのか、疑問を感じる。

○P60（2）精神障害者を支える地域包括システムの構築

・精神障害者を支える地域包括システムについて、1 年以上入院した患者数を減少させるとの目標があるが、意図が分からない。前の計画と表記が変わっている。精神病棟に長期入院する高齢の方が多くいるので、そういった人たちの声が届かない。政策委員会で議論してほしい。説明をしてほしい。非常にショックな記載の仕方。具体的な数値目標があったところ、「減少」となっている。タイトルが地域包括ケアシステムというのも馬鹿にしているように感じる。

○P 6 0 (3) 地域生活支援拠点等が有する機能の充実

- ・地域生活支援拠点について、親亡き後を考えると期待だけをさせて実態が伴わない。
- ・すでに地域生活拠点があるとのさいたま市の説明。しかも多機能な設備があるのではなく面でやっているという前提で進めているが、実態としては、課題が生じたケースでは、支援者がつてを使って繋いでいる状態。相談支援という業務であるのに、多機能であるという見せ方をしている。地域で何かが足りないという要望に対して、市の意欲が足りないように感じる。もっと話を聞く姿勢がない。「年1回」という実績は何の回数なのか。当事者としては、地域生活拠点とは、そこがあれば安心という施設であるのに、実態は支援者が繋ぐネットワークでできている。
- ・地域生活支援拠点はどこにあるのか。さらに運用状況について検証・検討しているなら結果を市民に分かりやすく教えてほしい。特に重度障害者の体験の場、緊急の受け入れ先はほぼ無いに等しい。

○P 6 2、(6) 相談支援体制の充実・強化等

- ・相談支援体制の充実・強化は基幹相談支援センターを作るだけでなく、計画相談を含めて、過重な負担を相談員にかけずに、相談事業が成り立つ報酬体系を現場と共に考え、事業者・相談員を減らさない努力が必要だと思います。

(2) その他の御意見

- ・コロナ禍と天候悪化や体調不良などが続くと薬や診察などが不安になるときもある。実際影響あった。
- ・コロナ禍だと日常の買い物にも不安を感じる時もある。
- ・移動にも不安を感じることもある。コロナ禍とロシアのウクライナ情勢で燃料費が上昇している。
- ・生活の糧を得るための情報のとり方にも不安を感じる。影響を感じる。
- ・緊急の連絡先の基準について教えて下さい。
- ・コロナ禍で多くの人の集まる行事の中止があり、事業の実施ができなかったことは残念でした。
- ・このコロナ禍の中でも、事業番号9等合理的配慮の好事例の収集が実施できたことは良かったと思います。
- ・グループホームの整備が進んでいることは、多くの障害者が望んでいることで、これからも整備・促進をお願いしたいです。併せて、グループホームの実態調査をしていただきたいです。職員の人手不足からの放置が見られたり、入居前の利用者のマッチングなしからのトラブルがあるようです。
- ・知的障害の人と触れることしかなく、身体障害の人の意見が貴重になった。

・コロナ禍で聞こえない人にとって、発熱がある際どこの病院に連絡すればいいかわからない。電話ができないから病院に相談ができない。目で確認するにもさいたま市の HP はわかりにくい。

・ホテル療養の食事の連絡が電話。聞こえない人は自宅にしてくださいと言われた事例を聞いたことがある。

・高次脳機能障害は精神障害。精神障害だけど、はたから見えない。色んなことがあり、それについて、自分もそうだが失語症があり、思ったことが言えない。困っているのだけど、何かがどう困っているか言えない。手話通訳みたいな伝える人がいればいいが、そんな人はいない。何か意見ありますか、と言われても、喋れないから、意見ないですね、となってしまうこともある。身体3級だが見た目では障害者とわかる。高次脳機能障害者とまでは気づいてもらえない。視覚障害もあるから、点字ブロックがあれば点字の上を歩く。点字は読めないが、点字ブロックに沿って歩いていくと、壁にあたり、壁に点字で表示がしている。下りの階段は怖いから下りのエスカレーターがあるといいが、上りに比べて少ない。ユニバーサルデザインではないと感じる。気づいてもらえるような社会になるといいと思う。

・見てわかる障害とそうではない障害があるという話があった。「高次脳機能障害です。」と言ってもどういう障害かというか、どう困っているかをわかってもらえない。そういうところがすごく大事だろうと思った。障害者同士でも似たところもあるし、違うところもあると感じた。

・点字に何が書いてあるかが分かるといいと思った。点字で視覚障害者に何を伝えているかを、周囲にもわかるといいと思った。

・草むらの中に点字があった。近づいてみたら、まむしに注意とあった。思いやりかもしれないけど、思いやりではない。市内の公園。

・私も視覚障害がある。点字を目印として歩く時もある。片目が見えない。のぼりは苦にならないが、くだりはやはり怖いのでエスカレーターを使う。杖を持っていたこともあるが、見えないと思われる。見えるのになぜ杖を持っているかと思われることもある。ヘルプマークをつけるようにしている。自分なりの工夫をしている。

・下りの階段は、しましまの通路に見えることがある。落っこちてしまいそうに思うことがある。

・下りが怖いという、具体的なことがわかることが、大事だと思った。研修というよりも小さい時から子供の時から知っていれば、特別なことと思わないで危ない時にどう支援したらいいか、声がけをすればいいかをわかるようになるのではないか。体験をする機会があれば、普及啓発になるのではないか。

・子供たちだとすると、精神とか教育として大切だが、色んな生きづらさを抱えることがある。人生の中で出会うことも珍しいことではない。そういったことをわかることも大事ではないか。精神は大きい音に反応してしまう、電車が苦手になることもある。色んなことが起こりうるということも教育の中で伝えられるといいと思った。多様性、違いがわかるといい

と思った。

・注文になってしまうが、点字ブロックを歩いていたら段差があって転んだ。危ないから直してと言ったが、直せないと言われた。

・危険箇所は市民が市にあげていくことで、市民と市の連携になっていいことなのではないか。

・点字ブロックを歩いていたら、カラーコーンがあって、塗りたて危険とあった。思いやりがないと思った。

・点字ブロックが1本しかなくて正面衝突。卓球でコートチェンジがない。障害者の立場になって考えることが大切。

(話し合い終了)

(事務局)

それでは、お時間となりましたので、各グループのファシリテーターの方にグループでの話し合いの概要を発表していただきます。時間の都合上、全ての方の御意見を発表していただくことはできませんが、皆様から頂戴した御意見は各グループの書記が記録しておりますので、後日会議録を作成させていただきます。

また、各グループからあがった御意見については、会議終了後、必要に応じて会場前方に投影いたします。会議終了後に写真をお撮りいただく時間を設けますので、記録が必要な方は撮影を行ってください。

なお、掲示している内容につきましては、後日、データ化して御提供いたします。本日御参加いただいている方の中で、視覚障害のある方以外に、データを御希望の方は、事務局までお声がけください。

それでは、Aグループからお願いいたします。

(各グループ発表)

3. 閉会

◆まとめ

(事務局)

ファシリテーターの皆様ありがとうございました。

事務局から1点御報告をさせていただきます。

令和4年10月頃の1か月間を実施期間として、次期障害者総合支援計画策定のアンケ

ート調査を予定しております。こちらにつきましては、さいたま市障害者政策委員会で御協議いただいております。こちらのアンケートは、障害当事者の方や障害福祉事業者の方へ無作為抽出により配布するものです。お手元にアンケートが届いた際には、是非御協力いただきますようお願いいたします。アンケートの速報値等につきましては、後に予定しております、令和4年度第3回誰もが共に暮らすための市民会議にて御報告させていただく予定でございます。

なお、本日お配りしました、参考資料3「次期障害者総合支援計画策定のためのアンケート調査（案）について」に、アンケートの概要を掲載しておりますので、後ほど御確認ください。事務局からの報告は以上となります。

それでは、以上をもちまして、「令和4年度第1回誰もが共に暮らすための市民会議」を終了いたします。

本日は、お忙しい中、御参加いただき誠にありがとうございました。

御記入いただきましたアンケート用紙は、会場の出口付近で回収しておりますので、御提出をお願いいたします。

それでは、お忘れ物のないよう、お気をつけてお帰りください。